



「2014年春季 JNN 社長会」で 石原社長が基調報告

3月20日(木)、ホテルオークラ東京において「2014年春季 JNN 社長会」が開催され、石原社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

【番組関連】

ソチ五輪では、日本人選手の3つのメダル獲得の瞬間をお伝えすることができ、NHKを含めた中継競技枠で1位と2位の視聴率を獲得することができた。結果は大変良かったのではないかと。視聴率状況だが、今年度は『半沢直樹』や『世界陸上モスクワ大会』など、健闘した番組もあったが、特に火曜、水曜、木曜のレギュラー番組が低迷し全体として満足すべき結果を得られなかった。4月改編では、現状を打破すべく、三つの柱を掲げた。一つ目は、報道、情報番組の強化で、特に4月は、朝の二つの情報系ベルト番組を新しい体制でスタートさせる。二つ目は、火曜、水曜、木曜の強化だ。火曜22時にドラマ枠を新たに設けるとともに、水曜日の枠構造を変えるなどバラエティの強化を図る。三つ目は、深夜だ。これはローカル枠だが、若年層の視聴を獲得して、局イメージの改善を図っていききたい。また、昨年スタートした『テレビ未来遺産』だが、皆様からのご協力もあり、このところ3回連続して二桁を記録するなど順調に育ってきた。「JNNらしい」番組でもあり、当系列のブランド価値を高めるため、引き続きご協力をお願いします。

【電波行政関連】

我々放送業界を取り巻く環境だが、4K8K放送への取り組み、ハイブリッドキャストを含むスマートテレビなどへの対応、タイムシフト視聴やリモート視聴など、取り組むべき課題は多い。また、この国会に提出された放送法の改正案では、異なる放送対象地域において同一の番組を放送することを可能とすることなどが盛り込まれている。これからの国会審議を注視していきたい。

【新体制】

先週当社の4月からの新しい役員体制を発表したが、新たに3人の新任の取締役を選任することにした。また4人の取締役を常務に上げたが、自分の担務だけでなく、会社全体の大局的な視点に立って、より積極的に経営に関与してもらおうと考えている。新しい体制で、「時代の変化に対応した改革」に積極的に取り組んでいく。

来年は、戦後70年であり、またTBSテレビ放送開始60年という節目の年でもある。戦後70年については、JNN各局と共に、現場でいろいろと企画を検討していると聞いている。ご承知のように、最近、中国の台頭により国際状況も大きく変化しており、国内も集团的自衛権の容認など、戦後日本が歩んできた基本方針を、大きく変えようという議論も活発になっている。こうした状況なので、JNNらしい骨太の番組が出来ればと期待している。

以上